

●SDGsは、全従業員のものもの価値観やコストに対する意識が高まるキッカケとなった。また、社会をよりよくしていく活動であり、**全社員にSDGsをスムーズに浸透させることができた。**

●他社工場の牛乳パックの印字ロス品を原材料として購入。自社工場にて、粉碎、解繊、加工を行い、家庭用の油処理材（吸収タイプ）や海上へ流出した油を回収する高性能油吸着マットを製造。**牛乳パックの印字ロス品を原材料として無駄なく100%再利用している点で、他社との差別化に成功。**

## ○SDGsを経営に取り込む流れ

- ・社長がSDGsの重要性に気づきSDGsをどのように業務に落とし込めるか検討するよう指示をした。
- ・まず、製造部においては、製造工程で**製造ロスを活用**できないかを協議し、**製造ロスを如何に削減**するかについて、検討した。そこで、製造ロスの再利用を推進するため、**資源として他社への提供**を実施した。
- ・SDGsはこれまで**自社で実践してきたリサイクル活動の延長**で、社員の間では、社会をより良くしていくために必要な活動として認識されている。このため、SDGsを経営に取り入れるにあたり、**特に問題はなかった。**



## ○SDGs経営を進める上でのメリット

- ・SDGsを意識したことで、全従業員がこれまで以上に**ものもの価値、コストを意識**するようになった。
- ・取引先の企業その他金融機関に対し、**持続可能な社会の実現を目指す会社であることを示す**ことができた。
- ・リクルートの点においても、SDGsという共通言語を用いることで**採用活動における情報発信においても役立つ**ている。

## ○SDGsの主な取組



### ●他社の工場から出た廃棄材の再利用

他社工場の牛乳パックの印刷ロス品を原材料として購入。自社工場において、粉碎、解繊、加工を行い、家庭でも多く利用されている油処理材（吸収タイプ）や海上へ流出した油を回収する高性能油吸着マットを製造し、市場へ出荷している。**牛乳パックを無駄なく100%再利用している点で、他社と差別化した特徴ある吸油性の高い製品となっている。**

### ●自社製造工場から出た廃棄材の再利用

自社工場から出る自社製品の製造ロス品についても、**関連する他業者との協業により再資源化し再利用**。吸収体の破材とパルプ梱包材を再利用するなど、発生する製造ロス品の有効活用を進めている。



## ○SDGs経営を進める上で課題となったこと

・廃棄材を利用し、高機能な製品を作ることは難しい。合理的な生産をするには、高度な技術力がポイントとなる。



## ○今後の展開

### ●新商品への活用

これまでの経験を活かし、今後も廃棄材の再資源化を進め、**新製品への更なる活用を検討**する。

### ●自社での再資源化、再利用を加速

現在は、他社で出た廃棄材を活用する比率が高いが、**自社から出た廃棄材を自社で再資源化し、活用できるよう検討**する。

## ○会社概要

香川県観音寺市に本社を構え、全国に6拠点を設ける。1965年より大人用紙おむつ、医療用紙製器具容器、生理用ナプキン、ペットケア関連製品、ディスプレイ（使い捨て）製品、産業資材製品（油吸着材、鮮度保持シート、ドリップ吸収シート、葬儀用品、防災用品）、各種ギフト用品などの商品開発、製造、販売を実施。特殊吸収体メーカーとして長年培った吸収体の技術を活かし、産業・社会生活の多様なニーズに確かな品質と性能のモノづくりで、人々の暮らしの豊かさに貢献。